アワプラジオ通信【2015 年 8 月号】

インタビューシリーズ

山口県の上関原発建設計画に待ったをかける首都圏の活動

上関原発どうするの？　～瀬戸内の自然を守るために～
（上関どうするネット）
デモプロジェクト　菅波 完さん・藤村康子さんに聞く

東京で開催された『10.3 NO NUKES FESTA』をきっかけに 2009 年 11 月に発足した市民グループ。デモプロジェクトはイベント開催の際に提案内容をつくりメンバーに提案し、準備のための実務などを担当するチーム（写真左が藤村さん、右が菅波さん）。
■公式サイト　http://kaminoseki.blogspot.jp/

――上関原発の建設計画についてお願いします。

菅波さん：1970 年代から日本の各地で原発の建設が進んできましたが、この上関原発は今から新しく原発を作ろうと計画されているものです。

時代は再生可能エネルギー等に切り替わっていく中、瀬戸内海のいちばん自然が豊かなところで埋め立てを行うことで海に対してもダメージを与え、そこへさらに東日本大震災以降、問題になっている原発を作ろうというものです。

私たちは原発に反対するだけでなく、瀬戸内海の豊かな海を守るという地元の漁師さんの気持ちを受けて、地元での反対運動を応援しています。上関町の田ノ浦という入江が建設予定地なのですが、その対岸 3～4km のところに位置する祝島というハートのかたちをした島があり、そこの住民の方々が 30 年以上にわたって反対の声を上げています。ただ上関町の中には原発で町おこしをしたいという声もあり、町の中では推進派のほうが多いという状況です。

町の選挙ではこの問題が常に争点になっていて深刻な対立を生んでいます。しかし、福島の原発事故が起きてからは明らかに状況が変わっていて、山口県内の周辺自治体からは計画を見直すべきという声がいくつも上がっており、それを無視して進めるわけにもいかないという状況になっています。

――お二人と上関原発問題とのかかわりやデモプロジェクトについて教えてください。

藤村さん：私が上関原発計画を知ったのは 2009 年です。当時 PARC（パルク、アジア太平洋資料センター）が主催する自由学校というものに通っていました。そのときに上関原発へ行く機会があったのですが、行ってみると何も知らない自分に気付かされました。

私は生活クラブ（生活クラブ生活協同組合）の活動もしているのですが、そこのイベントでこの問題に関心を持つ 2 人の女性と意気投合しまして。それがきっかけでこのどうするネットに発足から参加しました。私は国会でのロビー活動を主にやっています。以前は上関原発の問題を知らない国会議員が多かったのですが、3.11 の震災をきっかけに関心が高まりました。

デモプロジェクトは年に 1 回、東京で行われる大きなイベントを中心になって企画するチームです。私もそうでしたが上関原発のことを知っている人が少ないので、まずは多くの方に知ってもらいたいと考えています。イベントにはこの問題をすでに知っ

ている方も来てくださいますが、関心を持ってくださった方が周囲の人に伝えて広がっていけばいいと考えています。

菅波さん：私は普段、高木仁三郎市民科学基金（市民科学者の故・高木仁三郎さんの遺志で発足したNPO法人）の事務局をやっています。この基金は2000年12月に発足したのですが、当時からずっと継続して助成している案件がこの上関原発（建設予定地）周辺での生態系の調査です。私は2002年から事務局をやっているのですが、これをきっかけに知った『上関の自然を守る会』の活動を応援していて、実際の現場を案内していただくなどというところから上関の問題に関わり現在に至ります。

（開催するイベントには）もっともっとたくさんの方に来てほしいです。東日本大震災の直後はみなさん緊張感や切迫感があり、会場に入りきれないほどの人が集まったのですが、その頃に比べると意識が日常に戻ってしまっているように感じます。これからのエネルギーをどうしていくか考えなければいけない時期が来ていますから。

――今後の活動の展開や目標をお願いします。

菅波さん：この上関原発はまだ建っていないものなので、建てさせないということがものすごく重要なのです。再稼働させないことと、新しく原発を作らせないというのは全く意味が違いますからね。建てようとする側の動きにも、(地域コミュニティなどの)分断、漁業補償金や埋め立て免許（にかかわる問題点)、抗議する市民を裁判で吊るし上げるなどの問題性もあり、瀬戸際で何としても食い止めることがどうするネットの役割ではないかと思います。

藤村さん：私はどうするネットのメンバー内でみんなが普段どういう思いで取り組んでいるのかなどを共有する場を作りたいと考えています。

原発予定地になっているところは本当にきれいな砂浜と海があって、感動する美しさなのでぜひ行って見ていただきたいです。「こんなところに(原発を)建てるのか？」とみなさん思うはずです。今の私の原動力もそこにあります。自然との対話を考え、ほどほどでいいじゃないか、搾取してまで豊かにならなくていいじゃないかという社会に変わっていくといいと思いますね。

（すげなみたもつ・ふじむらやすこ）

＜まとめ：井上舞香＞

Abe’s VIEW　Vol.9　「元相撲選手」　あべこうー

小学校の高学年くらいから中学の頃にかけて、相撲を取ることが好きでした。身長は高いほうでしたが、青白くやせてひょろ長い体格。腕力もありませんでしたが、大相撲観戦が好きで研究熱心だったせいか、体重差があったり野球やサッカーなどといった他のスポーツで活躍しているような連中だったりにも簡単には負けませんでした。

力比べになっては勝てないので、得意技は相手の力を利用するような投げ技が中心。決まれば派手で豪快に見えるので、周囲からは「何であんなひ弱そうな奴が？？」というように驚かれました。

中学校に相撲部というものはなかったのですが、相撲経験のある教員がいて何の部活にも所属していなかった私はその教員の指導の下、県の大会に出場しました。一緒に出場したのは他の部に所属していながら予選落ちしてヒマになっていた仲間たち。土俵がなかったので、グランドに円を描いて稽古していました。

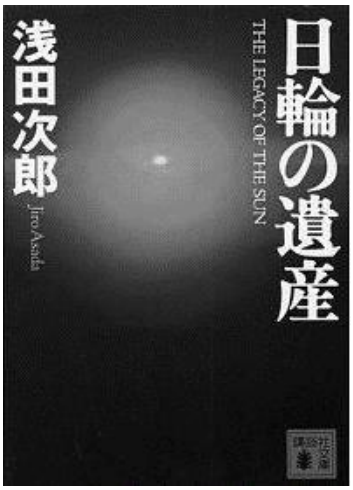
自信満々だった私ですが大会会場に行ってみると他校の出場者は見るからに強そうで、とても中学生には見えない（老けている）選手ばかり。眼光の鋭さや雄叫びなどにもビビッてしまい戦意喪失。そのまま回れ右をして引き返そうかと思ったくらいでした。結果は惨敗。帰りに顧問の教員からごちそうになったラーメンの味がせつなかったことを思い出します。

先日、大相撲の旭天鵬関が引退しました。40歳の彼は年齢が私より一歳上。体重さえあれば自分でも力士になれるのではないかと勘違いしたあの頃のことを思いながら、時の流れを感じずにはいられません。

本の紹介

日輪の遺産（1997 年 7 月）

浅田次郎 著・講談社文庫・812 円



今年は戦後 70 周年。日(ひ)出国(いづるくに)の精神を一冊の本に見た。

太平洋戦争末期。敗戦が決定的になっていた八月十日、ひとりの青年少佐が市ヶ谷の陸軍本部で密命を受ける。

日本軍はマッカーサーから奪った財宝を戦後の復興に充てるべく、東京・南多摩の三ノ谷への隠匿計画を水面下で進めていた。

財宝の箱を運ぶ役目はあどけなさの残る女学校の生徒三十五人に与えられる。そしてすべての箱が納められたとき、終戦の玉音が谷を流れる。だが戦は終わっても作戦完遂のためには少女たちの口を封じなければならない。しかしその命を受けた少佐は命令に抗うことを決意し焦土と化した市ヶ谷を奔走する。

時は流れ現代の日本。桜が舞い、緑の草に囲まれ、平和に満ち溢れた三ノ谷に笑い声がこだまする。その下にはマッカーサーの財宝とそれを囲むように少女たちが静かに眠っていた。なぜ少佐は命がけで少女たちを守ろうとしたのか。なぜ少女たちは命を賭して財宝を守ることにしたのか。

重い命題ではあるが、現代との切り替えのテンポが良いため一気に読んでしまえる。失われつつある戦争の記録と先人の遺産に思いを馳せつつ手に取りたい一冊だ。（浅香友里）

五感の力でバリアを越える（2009 年 3 月）

成松一郎 著・大日本図書・1728 円

我々の認識は様々な感覚が脳で処理されて現に感じている世界を作っている。それらはたとえ意識されることがなくても驚異的である。もし繊細なこのプロセスがうまく機能しなかったらどのぐらいに不便を感じるだろうか。統合失調症に悩む患者の事例では脳内の処理がうまくいかないために、通常聞き流される程度の取るに足りない人の話し声や些末な音にさいなまれることになる。

そのほか色弱、視覚障害、聴覚障害の例を挙げつつ彼らが普段の生活でどのように周りの物事を感じ、不便さを感じているかを丁寧に説明している。

コントラストを和らげ過剰な刺激を和らげるための色つき眼鏡、色弱の人でも区別しやすい色による公共物でのデザイン、点字の書籍、皮膚を通じて振動によるメッセージを伝える器具、これらの様々な問題を解決するために考案されていくシステムや道具はさらに改良を重ねられていく。不便さを乗り越えるために役立つ道具を開発しようとする研究者側の試行錯誤がうかがい知れる。

福祉や社会問題としての視点というよりは、生物的、医学よりの視点で書かれたもので感覚器の不思議さと奥深さを感じさせてくれる。

（内藤千尋）

++-

＜アワプラジオ通信を毎月お送りします！＞

毎月下旬ごろ発行しているアワプラジオ通信の購読を希望される方には 1,000 円（一年分の送料として）にて発送いたします。ネットの時代だからこそ“紙の手触り”は新鮮かと思います。メールまたはハガキにお名前、お届け先、メールアドレス、アワプラジオ通信の購読希望であることがわかるようにご記入の上、お申し込みください。振込先を添えてすぐに発送いたします（申し込み先は 4 ページ最下段）。

千代田区社会福祉協議会（東京）の中にあるちよだボランティアセンター（3 階エレベーター横）で、最新号をお持ち帰りいただけます。

あべこうーの音楽活動

■2015.8.29（土）川島夜店市（東京）出演

地下鉄『中野新橋駅』最寄りの川島商店街で開催される夏祭りのステージに出演します。詳細は決まり次第、随時あべのブログやスペシャルサイトなどにアップいたします。

■2015.9.25（金）下北沢 LOFT （東京）

時間：18：30 Open/19:00 Start
会場：下北沢 LOFT
（小田急線・京王井の頭線『下北沢駅』南口５分）
チャージ：¥2,000（1Drink 付）

■下北沢スムルトロン（東京）で毎週火曜日 19：00～22：00 に開催のオープンマイクに時々出演中！

出演のある日のみ前日～当日のあべの Twitter、Facebook 等でお知らせします。
会場：下北沢スムルトロン
（小田急線・京王井の頭線『下北沢駅』北口・西口５分）
チャージ：１オーダーお願いします。
●10 分程度演奏します。出演時間は毎回異なります。

インターネットラジオ　アワプラジオ

■東京ラブレター（毎週木曜日・21:00～21:30）

首都圏で活動する NPO や NGO、市民グループや個人の方を紹介する番組です。

●8 月のオンエア【6 日、13 日、20 日、27 日】

「南米各地の先住民族や紛争地域で生きる人々の日常と社会活動を記録する」
フォトジャーナリスト　柴田大輔さんに聞く
ナビゲーター：あべこう一、高木祥衣

●番組を聴くには

【パソコンで聴く】「サイマルラジオ」にアクセス。「近畿」→「FM わぃわぃ」を選択。※Mac の方は Windows Media Player をダウンロードしてください。

【スマートフォンや ipad で聴く】サイマルラジオに対応したアプリ「TuneIn Radio」をダウンロード。（検索窓で「FMYY」）。

■あべこうーの CD アルバム

夏に消えていく
（2013 年作品・1543 円）
１．夏に消えていく
２.君と僕と冷えたコーラ
３．イニシャル 2013
４．雷 Dance!
　～雨の夜のサーカス～
５．タイムカプセル

東京実験（2012 年作品･2038 円）
１．いろりカフェー
２．悲しくもおだやかな世界
３．Change
４．イニシャル
５．無題ドキュメント
６．風のドラマ
７.雷の下で雨粒に撃たれ

●詳細はこちら　http://k-abe.jimdo.com/shop/

<すべてのお問い合わせ>
awapuradio@gmail.com／090-6833-1491

編集後記

澤地久枝さんが提唱し、金子兜太さんが揮毫したメッセージ。共感。（阿部浩一）

++-
発行：アワプラジオクリエイティブ
107-0052　東京都港区赤坂 3-21-5 三銀ビル 3F サポートコール内
TEL: 03-6856-0722 FAX: 03-6856-0723
http://awapuradio.com/　awapuradio@gmail.com
++-
※住所等が変更となりました。